提出年月日：○○年○○月○○日

現代社会論　担当　小森　泰三　先生

課題：「より良い携帯電話社会を実現するために」

小学生の携帯電話の普及に伴う問題点と対策

経済学部経済学科1年X組

W1810999　吉野　さくら

はじめに

　小学生と携帯電話の問題は大きな社会問題の一つとしても挙げられており、否定的な情報や意見が多く見受けられる。しかし、携帯電話の普及率は2013年12月末で100%を超え、携帯電話は社会における必須のインフラになっているといっても過言ではない。このことから、そう遠くない時期に小学生が携帯電話を持つことが一般的になることが予測される。したがって今回の課題である「より良い携帯電話社会を実現するために」は、小学生が携帯電話を持つことに対する否定的な状況を改善する必要がある。

　本レポートでは、この点について検討を加えることとする。

第一章　小学生の携帯電話所持についての諸見解

　まず小学生に携帯電話を持たせることについて、どのような意見があるのかを見てみることにしよう。小学生が携帯電話を持つことについて、第一節　保護者側の視点、第二節　小学生側の視点に分けて、それぞれの見解を整理する。

第一節　保護者側の視点

　近年、小学生が携帯電話を利用するなかで、有料のゲームサイトを長時間利用して高額の料金を請求される、第三者とメールのやり取りをして犯罪に巻き込まれる、といったケースが見受けられる。そのため、保護者の見解には、携帯電話を所持することで、自分の子どもが何らかのトラブルに巻き込まれるのではないかとの懸念が多く見られた。また、携帯でゲームをすることや、友人と頻繁に通話やメールをすることなどが、時間の浪費や生活の乱れにつながるのではないか、といった意見もあった。このように、保護者には、小学生が携帯電話を持つことについて、全体的に否定的な意見に偏る傾向がある。

　その反面、以下のような肯定的な意見も見られる；

携帯電話をコミュニケーションツールとすることで、家族や友達、先生との関係が深まるのではないかと思います。また緊急時の道具としても有効なのではないかと思います。（西京県25歳主婦）（教育研究センター　2010：5）

　以上のように、保護者には肯定的な意見と否定的な意見の両者が見られた。

第二節　小学生側の視点

　携帯電話を持つことに関して、小学生の意見では肯定的なものが多い。その理由としては、「みんなが持っているから」という短絡的な回答が圧倒的に多い。しかしながら、塾通いをする小学生からは、「危険に直面した場合の緊急連絡手段になるから」といった切実な理由も見受けられた。

　以上の保護者と小学生の見解をまとめると、表１のようになる。

　この保護者と小学生の見解から見ると、両者ともツールとしての携帯電話の有効性を認めているが、保護者は子どもがトラブルに巻き込まれる、生活が乱れるなどの、携帯の利用法で不安を感じていることが分かる。

第二章　小学生の携帯電話の利用について

　ここまでの検討から、小学生が携帯電話を持つことについて、保護者・小学生ともにその利便性を肯定的に見ているが、特に保護者は子どもが携帯電話を利用することに不安を感じている、といった状況が明らかになった。したがって、小学生が携帯電話を持つことに否定的な状況を改善するためには、保護者の不安を取り除くことが、最も必要なことである。さらに、そのためには、小学生が適切に携帯電話を利用するように誘導する必要がある。ここで問題となるのは、小学生に携帯電話の利用法を誰が教えているか、という点である。

　教育研究センターの調査によると、携帯電話を使っている小学生の約80%がその利用法や危険性について説明を受けたことがないとしている。つまり、保護者は小学生の利用法に不安を感じてはいるが、保護者自身が、子どもに携帯電話の利用法などについて具体的な対策を取っていないのが現状なのである。

　したがって、まず必要なことは、小学生を対象に携帯電話の利用法や危険性について適切な教育的指導を行うことである。この点については、既に携帯電話各社も出張授業などの支援を行っており、これを小学校の授業などで活用するべきであろう。同時に、保護者は子どもに携帯電話を持たせっ放しにするのではなく、携帯電話の利便性と危険性について積極的に話すとともに、子どもの動向に絶えず注意を払い、携帯電話の利用状況を適切に管理することが必要なのである。

おわりに

　小学生が携帯電話を持つことについて、当事者である小学生は肯定的にとらえているが、保護者は利便性を認めながらも、子どもが携帯電話を使うことに不安を感じているのが現状である。

　しかし、文中でも指摘したように、今後小学生が携帯電話を持つことは一般的になると考えられる。したがって、より良い携帯電話社会を実現するためには、小学校などで携帯電話の利用法と危険性を積極的に教えるとともに、保護者は適切に子どもの携帯利用を管理していくことが求められているのである。